

世界経済史 B		講義	講師 牧田義也	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの選択 必修科目 経営・経済コースの専門選 択科目	科目ナンバリング	23102205	

1. 授業のねらい・概要

本講義は、「世界経済」の歴史の変遷を、グローバルヒストリーの方法論に基づいて検証する。グローバリゼーションという言葉が人口に膾炙した 21 世紀、私たちの社会経済生活は世界のさまざまな地域と密接に結びついている。しかし、グローバリゼーションは現代社会に特有の現象ではなく、それ自体が長い歴史をもつ「プロセス」である。本講義は、国境を越えた人間の経済活動に焦点を当てて、グローバリゼーションを歴史的過程として捉え直し、地域・国家・国際社会が連動しながら「世界経済」が展開していく様相を明らかにする。後期の世界経済史 B では、移民・売春・流通・ジェンダーを主題として考察を行う。

2. 授業の進め方

講義・グループワーク・全体討論を組み合わせながら、各回の主題について考察していく。

3. 授業計画

1. イントロダクション	9. 商品と流通①：コーヒー
2. 移民と労働①：近代世界の移民と労働	10. 商品と流通②：砂糖
3. 移民と労働②：日系移民の世界史	11. 商品と流通③：生糸
4. 移民と労働③：移民と難民	12. ジェンダーでみる世界経済①：性別役割分業
5. 売春の世界史①：公娼制度と「からゆきさん」	13. ジェンダーでみる世界経済②：家事奉公
6. 売春の世界史②：戦争と売春	14. ジェンダーでみる世界経済③：看護
7. 売春の世界史③：人身売買と性暴力	15. 総括
8. 中間試験	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

初回授業での説明をもとに、高校の世界史教科書等を利用して、関連する基礎的知識を事前に確認しておくこと。グループワーク・全体討論の主題について、自分の意見を述べるができるように、関連する情報を自ら収集すること。毎回配布する講義資料を復習し、内容をしっかりと理解しておくこと。予習・復習に要する時間の目安は 90～120 分程。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

中間試験・期末試験後に講評を行う。

6. 授業における学修の到達目標

「世界経済」の歴史の変遷について、授業で扱う具体的な主題・事例に即して、他者に対して説明できるようになること。

7. 成績評価の方法・基準

グループワーク・全体討論の評価（30%）、中間試験（30%）、期末試験（40%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

授業各回で講義資料を配布する。参考文献は授業時に適宜伝える。

9. 受講上の留意事項

前期の世界経済史Aを併せて受講することが望ましい。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無
該当しない

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連
上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。